

- ・施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類を捕殺する。
- ・タバココナジラミの発生がみられる場合は、ベストガード水澆剤、コロマイト乳剤等を散布する。

5 きく ハダニ類

- ・発生量：多い
  - (1) 発生予想
  - (2) 根
  - (3) 対策
- ・現在の発生はやや多い(平年比:は場率177%、株率162%)。(+)  
 ・向こう1か月の日照時間が平年並から多い見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖に適している。(+)  
 ・下葉や葉裏にかけ残しがないように、薬剤を散布する。薬剤のかかりやすい生育初期から防除することで、その後の増加を抑制する。  
 ・発生初期に気門封鎖系薬剤をスポット散布するか、コロマイト水和剤[ハミガ]、スターマイトフロアブル等を葉裏によくかかるように散布する。

6 その他の病害虫

発生予想	現況	発生予想	現況
きゅうり	うどんこ病	やや少	やや多
にら	アザミウマ類	やや多	アザミウマ類
	ネダニ類	多	多

イネ綿葉枯病の防除対策

- ・平成23年11月下旬から12月上旬に調査したヒメトビウカ越冬世代幼虫のイネ綿葉枯病ウイルス保虫率が過去10年で最も高く、また、ウシカ類幼虫の生息密度も平年の約2倍と高くなっています。地域別では県南部(特に下都賀地域)で要防除水準(越冬世代幼虫の保虫率10%)を超える地点が見られたため、今後同地域では綿葉枯病の多発が懸念されます。
- ・イネ綿葉枯病対策としては抵抗性品種(あさひの夢)の作付を増やす他、綿葉枯病を媒介するヒメトビウカの防除対策が必要です。要防除水準を超える地域で罹病性品種(コシヒカリ、なすひかり等)を作付する場合は、アドプライヤー-CR箱粒剤、タントン箱粒剤またはこれらを含む混合箱施用剤を使用しましょう。なお、プライヤーC箱粒剤は栃木県内で薬剤感受性が低下したヒメトビウカが確認されているため、県南部(特に下都賀地域)では罹病性品種に使用しないでください。

1か月予報(予報期間1月14日から2月13日 1月13日気象庁発表)

関東甲信地方の天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は低い確率50%です。週別の気温は、1週目は低い確率50%、2週目は平年並または低い確率ともに40%、3〜4週目は平年並または低い確率40%です。

項目	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	50%	30%	20%
○降水量	40%	40%	20%
○日照時間	20%	40%	40%

農薬を適正に使いましょう!

- ☆ミツバチやマルハハチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆農薬を散布する場合には、周辺の人や農作物等にかからないように十分注意し、周辺住民に周知を図るとともに散布の時間帯にも気を配りましょう。
- ☆農薬を使用する場合は必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
- ☆同一薬剤の連用による抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
 当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。  
 Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成23年度 病害虫発生予報 第10号

平成24年1月20日  
 栃木県農業環境指導センター

- トマトの灰色かび病の多発が懸念されます!
- いちごのハダニ類が依然として多く発生しています!

予想期間1月下旬〜2月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想
  - (2) 根
  - (3) 対策
  - (4) 備考
- ・発生量：多い  
 ・現在の発生は多い(平年比:は場率206%、株率322%)。(+)  
 ・向こう1か月の日照時間が平年並から多い見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖に適している。(+)  
 ・ハダニ類は下葉に多いことが多く、必要に応じて下葉かきを行う。  
 ・気門封鎖系薬剤をスポット散布するか、スターマイトフロアブル等を葉裏にもよくかかかのように散布する。  
 ・当センターHPPに植物防疫ニュース速報No.14「いちごのハダニ類の多発生に注意しましょう!」を掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想
  - (2) 根
  - (3) 対策
- ・発生量：やや多い  
 ・現在の発生はやや多い(平年比:は場率152%、株率150%)。(+)  
 ・向こう1か月の日照時間が平年並から多い見込みで、施設内の日中の気温が上がり、発生に適している。(+)  
 ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適切な温度管理やかん水を行う。  
 ・現在発生が見えなくなっても今後発生する可能性があるため、硫黄粒剤でくん煙する。  
 ・発生初期にトリフミン水和剤、ベルクトフロアブル等を葉裏にもよくかかかのように散布する。

3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想
  - (2) 根
  - (3) 対策
- ・発生量：多い  
 ・現在の発生はやや多い(平年比:は場率243%、株率138%)。(+)  
 ・厳寒期は施設内が多湿になりやすく、発生に適している。(+)  
 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。  
 ・咲き終わった花弁や発病果、発病葉は、伝染源となるので早急に除去し、施設外で処分する。  
 ・防除は予防を基本とし、暖房機を利用したボトキロー水和剤のダクト内投入による防除を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。  
 ・発生初期にフルピカフロアブル、セイビアフロアブル2.0等を散布する。

4 トマト 黄化葉巻病

- (1) 発生予想
  - (2) 根
  - (3) 対策
- ・発生量：やや多い  
 ・現在の発生は多い(平年比:は場率363%、株率300%)。(+)  
 ・黄化葉巻病を媒介するコナジラミ類の発生はやや少ない(平年比:は場率38%、株率24%)。(+)  
 ・タバココナジラミの吸汁によって媒介されるので、タバココナジラミの防除を行う。  
 ・罹病株は伝染源となり、タバココナジラミの媒介により周辺ほ場への拡散も懸念されるので、見つけ次第すみやかに抜き取り、さらに土中に埋設するか、ビニル袋等で密封し枯死させてから処分する。

平成23年度 病害虫発生予報 第11号

平成24年2月17日  
栃木県農業環境指導センター

○トマトの灰色かび病の発生が多くなっています！  
○いちごのハダニ類、アザミウマ類、うどんこ病の発生が多くなっています！

予想期間 2月下旬～3月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 現在の発生量は多い(平年比:ほ場率 201%、株率 22.5%)。(+)  
向こう1か月の日照時間が平年並の見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖にやや適している。(土～+)
- (3) 対策 ハダニ類は下葉に多いので、必要に応じて下葉かきを行う。  
・気門封鎖剤、マイトコネフロアブル等を葉裏にもよくかかるとともに丁寧に散布する。
- (4) 備考 当センターHPPに植物防疫ニュース速報No.14「いちごのハダニ類の多発生に注意しましょう！」を掲載中。

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 現在の発生量は多い(前年比:ほ場率 1686%、株率 950%)。(+)  
向こう1か月の日照時間が平年並の見込みで、施設内の日中の気温が上がり、増殖にやや適している。(土～+)
- (3) 対策 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内外の除草を行う。  
・発生初期から、マツチ乳剤[適用害虫：ミカンキイロアザミウマ]、スピノエース顆粒水和剤等を散布する。
- (4) 備考 アザミウマ類は花に寄生するので、花の中をよく観察する。  
・マツチ乳剤はIGR剤なので対象は幼虫のみである。  
・当センターHPPに植物防疫ニュース速報No.17「いちごのアザミウマ類の発生に注意しましょう！」を掲載中。

3 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 現在の発生量はやや多い(平年比:ほ場率 179%、株率 22.5%)。(+)  
向こう1か月の日照時間が平年並の見込みで、施設内の日中の気温が上がり、発生にやや適している。(土～+)
- (3) 対策 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適切な温度管理やかん水を行う。  
・葉病果等は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・現在発生が見えなくても今後発生する可能性があるため、硫黄粒剤でくん煙する。
- 発生初期にアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル等を葉裏にもよくかかるとともに散布する。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 現在の発生量は多い(平年比:ほ場率 220%、株率 309%)。(+)  
・越冬期は施設内が多湿になりやすいため、発生に適している。(+)  
・生育に応じて葉かきを実施し、施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、植物体表面の結露は発病を助長するため、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
- (3) 対策 咲き終わった花弁や落果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・防除は予防を基本とし、暖房機を利用したボトキラー水和剤のダクト内投入による防除を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。

- 発生初期に、カンタスドライフロアブル、グッター水和剤等を散布する。
- 当センターHPPに「平成23年度病害虫発生予察注意報第3号(トマト灰色かび病)」を掲載中。

5 トマト 黄化葉巻病(タバココナジラミ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 現在の発生は多い(平年比:ほ場率 795%、株率 700%)。(+)  
・コナジラミ類の発生はやや少ない(平年比:ほ場率 52%、株率 14%)。(一)
- (3) 対策 タバココナジラミの防除を行う。  
・罹病株は伝染源となり、タバココナジラミの媒介により周辺ほ場への拡散も懸念されるので、見つけ次第すみやかに抜き取り、さらに土中に埋設するか、ビニル袋等で密封し枯死させてから処分する。  
・施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類を捕殺する。  
・タバココナジラミの発生が見られる場合は、アブロードエースフロアブル、クリアサールフロアブル等を散布する。

6 その他の病害虫

いちご	発生予想	現況	発生予想	現況	発生予想
灰色かび病	多	アザミウマ類	多	アザミウマ類	多
アブラムシ類	平年並	白班葉枯病	平年並	白班葉枯病	平年並
コナジラミ類	やや少	ネダニ類	やや多	ネダニ類	多
うどんこ病	やや多	白さび病	やや少	白さび病	やや少
褐斑病	やや少	ハダニ類	平年並	ハダニ類	多

春の病害虫防除対策

- 水稲 イネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)  
・綿葉枯病の多発が懸念される県南部(特に下都賀地域)で罹病性品種(コシヒカリ、なすびかり等)を作付する場合は、ヒメトビウンカ対策としてアトマイヤー-CRR箱粒剤、ダントツ箱粒剤またはこれらを含む混合箱施用剤を使用しましょう。  
・平成23年度病害虫発生予察注意報第2号(イネ綿葉枯病(ヒメトビウンカ媒介))を当センターHPPに掲載中。
- 水稲 イネドコロイムシ  
・前年発生が多く見られたほ場の周辺では、イネドコロイムシ成虫が多く越冬していると考えられます。成虫は5月下旬に本田への侵入を開始し産卵するため、被害が懸念される場合はイネドコロイムシに適用のある箱施用剤を使用しましょう。  
○いちご親株 ハダニ類・うどんこ病  
・定植する親株はハダニ類、うどんこ病がついていない株を選び、親株床には持ち込まないようしましょう。

農薬を上手に使いこなしましょう！

- ☆ ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆ 農薬を使用する場合は必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
- ☆ 同一薬剤の連用による抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間2月11日から3月10日 2月10日気象庁発表)

期間の前半を中心に気温が低い見込みで、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
向こう1か月の平均気温は低い確率50%。週別の気温は1～2週目は低い確率50%、3～4週目は平年並または低い確率ともに40%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	50%	40%	10%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

☆ 携帯サイトからも「ご意見・ご質問」が送信できるようになりました。ご活用下さい。  
詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用ください。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012

平成23年度 病害虫発生予報 第12号

平成24年3月16日  
栃木県農業環境指導センター

○トマトといちごで灰色かび病が多発しています！  
○いちごのアザミウマ類の発生が多くなっています！

予想期間 3月下旬～4月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：多い
  - 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率247%、株率510%)。(+)
    - 日中の換気の際に、開口部が大きく開くようになるため、発病にやや不適となる。(～±)
    - 下葉を取り除き、風通しを良くするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
    - 発病部位(下葉の葉柄、葉先の枯れ、収穫後の花梗、果実など)は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
    - 発生が見られる場合は、フルビカフロアブル、アミスター20フロアブル等を散布する。
- (3) 対策
- (4) 備考

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：多い
  - 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率187%、株率249%)。(+)
    - 向こう1カ月の平均気温は平年並みから低い見込みである。(±～-)
    - 発生が見られたら、下葉かきを行い、発生密度を下げてエコピタ液剤等の気門封鎖系薬剤をスポット散布するかコロマイト水和剤等を散布する。
    - 薬剤散布は、葉裏に十分に薬剤が付着するよう丁寧に行う。
    - 当センターHPに「いちごに植物防疫ニュース連載No.14「いちごのハダニ類の発生」」を掲載中。
- (3) 対策
- (4) 備考

3 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：多い
  - 現在の発生量は多い(前年比：ほ場率267%、株率388%)。(+)
    - 日中の換気の際に、開口部が大きく開くようになるため、ハウス内への飛び込みが増える可能性がある。(+)
    - 雑草はアザミウマ類の増殖源になるため、施設内外の除草を行う。
    - 発生初期からカウランダー乳剤[適用害虫：カメイトガ]、ディアナSC等を散布する。
    - カウランダー乳剤などIGR剤は、幼虫が防除対象である。
    - 当センターHPに植物防疫ニュースNo.17「いちごのアザミウマ類の発生」に注意しましょう！」を掲載中。
- (3) 対策
- (4) 備考

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：多い
  - 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率186%、株率343%)。(+)
    - 現在夜温が高くなり、暖房機の稼働時間が減少するため、夜間のハウス内が多湿となりやすいため、循環扇や施設内が多湿にならないよう換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
    - 施設内が多湿になりやすいため、暖房機を利用してボトキトラー水和剤の内投入による予防を基本とし、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。
    - 咲き終わった花弁や発病果、発病葉は伝染源となるので早急に除去し、施設外で処分する。
    - 発生初期または発病部位を除去してから、セイビアーフロアブル20、ダイマジン等を散布する。
- (3) 対策
- (4) 備考

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：平年並
  - 現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率32%、株率17%)。(±～-)
  - 向こう1カ月の平均気温は平年並みから低い見込みである。(±～-)
  - 今後は気温が上がるため、天窓が開き外部からの飛び込みが増える。(+)
    - 生育に応じて葉かきを実施し、葉裏に寄生した幼虫や蛹を除去する。除去した葉は、ビニル袋等で密封して枯死させてから処分する。
    - 雑草はコナジラミ類の増殖源になるため、施設内外の除草を行う。
    - 施設内に黄色粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
    - エコピタ液剤、サンククリスタル乳剤等の気門封鎖系薬剤を定期的に散布し、発生を抑える。
    - 発生が見られた場合は、コロト顆粒水和剤、サンマイトフロアブルを散布する。
    - タバココナジラミは発生初期の防除を心がけ、トマト黄化葉巻病の発生と拡大を防ぐ。
    - トマト黄化葉巻病が発生した施設では、保毒したタバココナジラミが周辺に分散することを防ぐため、必ず作付終了時に蒸し洗い処理を行う。
- (3) 対策
- (4) 備考

6 なし 黒星病

- (1) 発生予想
- (2) 根拠
  - 発生量：平年並
  - 昨年は、なしの生育初期から8月までやや多い発生が継続した。(±～+)
  - 向こう1カ月の降水量は平年並みの見込みである。(±)
  - 一次伝染時期となるりん片脱落期から開花期は最重要防除時期となる。果実基部病斑(芽基部病斑)の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に治療効果があるDMI(EBI)剤を散布する。
- (3) 対策

7 その他の病害虫

水稲	いちご	きゅうり	現 況	発生予想
コメカ	アブラムシ類	アザミウマ類	たまねぎ	べと病
うどんこ病	アブラムシ類	やぶもみぢ	きく	白さび病
アブラムシ類	やぶもみぢ	やぶもみぢ	ハダニ類	アザミウマ類
うどんこ病	やぶもみぢ	やぶもみぢ	アザミウマ類	
アザミウマ類	やぶもみぢ	やぶもみぢ		
アザミウマ類	やぶもみぢ	やぶもみぢ		

農薬は適正に使いましょう！

- ☆ ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択する。
- ☆ 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。
- ☆ ハウス内で薬剤を散布するときは、午前中のうちに葉裏にも薬剤がよくかかるように散布する。

1か月気象予報(予報期間3月10日から4月9日 3月9日気象庁発表)

天候は数日の周期で変わる見込みです。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は低い確率が60%です。2週目は、高い確率が50%です。3～4週目は、平年並の確率が40%です。

気温	降水量	日照時間	低い(少ない)	確率	平年並	確率	高い(多い)	確率
○	○	○	40%	40%	40%	40%	20%	20%
○	○	○	30%	40%	40%	40%	30%	30%

NEWS & INFORMATION

- ☆ 「平成24年度 農作物等病害虫雑草防除の手引」は4月上旬に発行されます。お求めの方は、(社)栃木県植物防疫協会(028-683-5533)にお問い合わせ下さい。

掲載サイトからも「ご意見・ご質問」が送信できます。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

**〇いちごとトマトの灰色かび病の発生に注意しましょう！**  
**〇アザミウマ類の発生が増加しているの、早めに防除しましょう！**

予想期間 4月下旬～5月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

- 1 いちご 灰色かび病**
- (1) 発生予想 発生量：多い  
 (2) 根 拠 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率246%、株率213%)。(+)  
 ・向こう1か月の日照時間は平年並～少ない見込みで、発生にやや適している。(土～+)  
 (3) 対 策 ・下葉を取り除き、風通しを良くするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。  
 ・発病部位は伝染源となるので速やかに取り除き、アミスター20フロアブル、フルピカフロアブル等を散布する。  
 (4) 備 考 ・農雨時は液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用する。  
 ・当センターHPPに平成23年度植物防疫ニュース(速報No. 19)「イチゴの灰色かび病が多発しています！」を掲載中。

- 2 いちご アザミウマ類**
- (1) 発生予想 発生量：多い  
 (2) 根 拠 現在の発生量は多い(前年比：ほ場率596%、株率488%)。(+)  
 ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで発生にやや不適である。(土～-)  
 (3) 対 策 ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるため、施設内外の除草を行う。  
 ・アザミウマ類に適用害虫：シキイロサバ、辺刈、カウエンター乳剤[適用害虫：シキイロサバ]等を散布する。  
 (4) 備 考 ・カウエンター乳剤はIGR剤なので防除対象は幼虫のみである。  
 ・当センターHPPに平成23年度植物防疫ニュース(速報No. 17)「いちごのアザミウマ類の発生に注意しましょう！」を掲載中。

- 3 トマト 灰色かび病**
- (1) 発生予想 発生量：多い  
 (2) 根 拠 現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率165%、株率80%)。(+)  
 ・向こう1か月の日照時間は平年並～少ない見込みで発生にやや適している。(土～+)  
 (3) 対 策 ・ハウス内が多湿にならないよう、換気やかん水に注意する。  
 ・咲き終わった花弁や発病果、発病葉は感染源となるので速やかに取り除き、シャスタミット顆粒水和剤、カントスターフロアブル等を散布する。  
 (4) 備 考 ・当センターHPPに平成23年度注意報第3号(トマト灰色かび病)を掲載中。

- 4 トマト コナジラミ類**
- (1) 発生予想 発生量：平年並  
 (2) 根 拠 現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率70%、株率51%)。(土)  
 ・向こう1か月の平均気温は平年並～低い見込みで発生にやや不適である。(土～-)  
 (3) 対 策 ・生育に応じて葉かきを実施し、葉裏に寄生した幼虫や蛹を除去する。除去した葉は、ハウス内外に放置せず、ビニル袋等で密封してから処分する。  
 ・タバココナジラミが発生しているほ場では、アプロートエースフロアブル、クリアザールフロアブル等を散布する。  
 (4) 備 考 ・タバココナジラミは発生初期の防除を心がけ、トマト黄化葉巻病の発生と拡大を防ぐ。  
 ・トマト黄化葉巻病が発生した施設では、ウィルスを保毒したタバココナジラミが周辺に分散することを防ぐため、必ず作付終了時に蒸し込み処理を行う。

**5 なし 黒星病**

- (1) 発生予想 発生量：平年並  
 (2) 根 拠 ・昨年は、なしの生育初期から8月までやや多い発生が継続した。(土～+)  
 (3) 対 策 ・向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。(土)  
 ・芽基部病斑は痛み取る。  
 ・2分咲きから落花直後に治癒効果があるDMI(EBI)剤、チオノックフロアブル(トレンノックフロアブル)等を散布する。  
 (4) 備 考 ・昨年多発した園では、防除を適切に行う。  
 ・耐性菌発生防止のため、DMI(EBI)剤は年2回以内の使用とする。  
 ・チオノックフロアブル、トレンノックフロアブルは同じ成分(チウラム)なので、総使用回数に注意する。

**6 その他の病害虫**

いちご	うどんこ病	アブラムシ類	コナジラミ類	黄化葉巻病	うどんこ病	現況	発生予想	きゅうり	たまねぎ	きく	褐斑病	アザミウマ類	ウマムシ類	アザミウマ類	ハダニ類	現況	発生予想
トマト	うどんこ病	アブラムシ類	コナジラミ類	黄化葉巻病	うどんこ病	平年並	多	たまねぎ	きく		アザミウマ類	ウマムシ類	アザミウマ類	ハダニ類	多	平年並	多

- 〇麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！**  
 ・麦類の赤かび病菌は人畜に有害なかび毒素(DON等)を産出するため、赤かび粒の混入した麦は販売できません。このため予防的な防除を行い、発生防止に努めることが重要です。  
 ・本年は12月以降の低温により麦類の生育が大幅に遅れています。また、4月13日気象庁発表の1か月月予報では気温が平年並～低いと予想されているため、出穂期も遅れると予想されます。今後の出穂や開花状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行います。  
 ※当センターHPPに平成24年度植物防疫ニュース(速報No. 1)「麦類の赤かび病の防除を適期に行いましょう！」を掲載しています。  
**〇いちごの観株床の管理を適切に行いましょう！**  
 ・本ほから観株床へのハダニ類やうどんこ病の持込みを防止するため、管理作業は別々に行うようにしましょう。  
**〇果樹類のカメムシ類の発生に注意が必要です！**  
 ・昨年はカメムシ類のえさとなるスズギヤヒノキの球果が多く、カメムシ類の越冬量も多かったと推測されます。そのため、5～7月にかけてカメムシ類の発生が多くなるおそれがあります。  
 ・今後の発生状況に注意を払い、適切な防除対策を行いましょう。

- 〇農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！**  
 ☆ミミズやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。  
 ☆同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。  
 ☆ハウス内で薬剤を散布する時は、午前中のうちに葉裏にも薬剤がよく掛かるように散布しましょう。

**1か月月気象予報(予報期間4月14日から5月13日 4月13日気象庁発表)**

天気は数日の周期が変わりますが、平年に比べ晴れの日が少くない見込みです。週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は低い確率40%です。3～4週目は平年並または低い確率ともに40%です。

	低い(少ない)	確率	平年並の確率	高い(多い)	確率
〇気温	40%		40%	20%	
〇降水量	30%		40%	30%	
〇日照時間	40%		40%	20%	

**NEWS & INFORMATION**

- ☆「平成24年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」は4月上旬に発行されています。お求めの方は、社団法人 栃木県植物防疫協会(028-683-5533)にお問い合わせください。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
 当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。  
 ※携帯サイトからも「ご意見・ご質問」が送信できます。  
 Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第2号

平成24年5月25日  
栃木県農業環境指導センター

〇麦類の赤かび病が多発しています！  
〇果樹カメムシ類の誘殺数が増加しています！

予想期間 5月下旬～6月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根 現在の発生量は多い(平年比：ほ場率1022%、発生率173%)。(+)  
(3) 対策 ・大麦は場で大粒が発生しており、二次伝染のおそれがある。(+)  
・薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1回目の防除で使用した薬剤以外で防除する。  
・赤かび病の発生が見られるほ場では、赤かび粒菌入防止のために刈り分けを行う。  
(4) 備考 ・当センターHPに「平成24年度注意報第1号」「平成24年度植物防疫ニュースNo. 1、No. 3」を掲載中。

2 いちご(親株)

- (1) 発生予想 ハダニ類 発生量：多い  
(2) 根 現在の発生量は多い(4月調査結果は平年比：ほ場率149%、株率230%)。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・発生初期に気門封鎖剤かネオイトフロアブルを、葉裏にもよくかかるように散布する。  
・本ほから親株へハダニ類を持ち込まないようにするため、ハダニ類の発生し始める本ほの管理作業後に親株の管理作業は行わない。  
(4) 備考 ・気門封鎖剤は、卵には効果が無い。残った卵から孵化する幼虫を殺すため、4～5日程度間隔を空け、必ず複数回散布する。

3 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 現在の発生量は平年並み(平年比：ほ場率103%、株率42%)。(±)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・生育に応じて葉かきを実施し、葉裏に寄生した幼虫や蛹を除去する。除去した葉は、ビニル袋などで密封し、枯死させてから処分するか土中に埋める。  
・コナジラミ類が発生しているほ場では、コロマイト乳剤、ベストガード水溶液をローアークション散布する。  
・冬春トマト栽培終了時には、野外にコナジラミ類を飛散させないため、抜き取るか株元で切断後、ハウス内温度が40℃以上であることを確認し、7日間以上の蒸し込み時を繰り返す。  
(4) 備考 ・蒸し込み時の過度な高温は、施設内の器具を傷めることがあるので注意する。  
・当センターHPに「平成24年度植物防疫ニュースNo. 4」を掲載中。

4 なし 黒星病

- (1) 発生予想 発生量：平年並  
(2) 根 現在の発生量は平年並み(平年比：ほ場率195%、芽基部病率0.0%)。(±)  
(3) 対策 ・向こう1か月の降水量は平年並～少ない見込みで、発生にやや不適である。(±)  
(4) 備考 ・芽基部病上の胞子形成抑制のため、アフエットフロアブル、ベルクートフロアブル等を散布する。  
・当センターHPに「ナシ黒星病の簡易薬剤感受性判定」を掲載中。

5 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根 現在のフェロモントラップおよび水銀灯予察灯の誘殺数は多い。(+)  
・昨年のスギ・ヒノキ葉果取量が多かったため、越冬世代の発生量は多いと考えられる。(+)

- (3) 対策 ・夜温が下がらず蒸し暑い日の日没後に飛来することが多い。こまめに園地内を観察し、飛来が認められたらスミチオン水和剤40(りんご、なし、もも、かき)かMr.ジョーカー水和剤(かんきつ、りんご、なし、かき、もも)等で防除する。  
(4) 備考 ・薬剤の散布は、夕方か早朝が効果的である。なお、早朝散布時には近隣への騒音に注意する。  
・特に、山形に隣接するか、過去に多発生した園地では注意する。  
・当センターHPに「平成24年度植物防疫ニュースNo. 2」を掲載中。

6 その他の病害虫

水稲	葉いもち	発生予想	現況	発生予想	現況
トマト	ニカメイガ	やや少	やや少	やや少	やや多
きゅうり	灰色かび病	やや多	やや多	やや多	平年並
	褐斑病	多	多	やや少	多
	うどんこ病	平年並	平年並	やや少	多

〇斑点カメムシ類対策は、本田内の雑草対策も重要です！

水田周辺の雑草(ノビエ、イソホタルイなど)も斑点カメムシ類を誘引し、発生源となります。本田内の雑草対策でカメムシ類の生息しにくい環境をつくり、斑点カメムシ類の発生を防ぎましょう。

〇施設害虫を次作に持ち越さないように封じ込めましょう！

・トマト、きゅうり、いちご等、施設栽培野菜では栽培終了時に、ハウス内の害虫が野外へ飛散しないよう、ハウスの密閉蒸し込み等により、適切に防除しましょう。特に近年、トマト(黄化葉巻病：タバココナジラミ媒介)、きゅうり(黄化えそ病：ミナミキイロアザミウマ媒介、緑葉黄化病：タバココナジラミ媒介)の発生が問題となっています。これらは、それぞれの害虫が媒介するウイルス病で、ウイルス伝染を次作に持ち越さない(ウイルス伝染を断つ)ためにも、栽培終了時の害虫の飛散防止対策の徹底が重要です。  
・栽培終了時に残存している病害虫は、それまでに散布された薬剤に対して感受性が低下している可能性があります。次作の防除で苦しいために、栽培終了時の病害虫防除を徹底しましょう。また、次作と作業が重なる作物では、病害虫を次作へ持ち越さないために管理作業時には細心の注意が必要です。

農薬を上手に使いこなしましょう！

☆ハウス内で農薬を散布するときは、午前中のうちに葉裏にも薬剤がよくかかるように散布する。  
☆同一系統の薬剤の連用を避け、必ず異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

1か月予報(予報期間 5月19日から6月18日 5月18日気象庁発表)

前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。後半は平年と同様に曇りや晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並の確率40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

項目	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
〇気温	20%	40%	40%
〇降水量	40%	30%	30%
〇日照時間	30%	40%	30%

NEWS & INFORMATION

☆7月23・24日に農薬使用者、販売者および営農指導員等を対象とした「栃木県農業管理指導士等研修」が開催されます。詳しくは、農政部経営技術課にお問い合わせください。Tel(028)623-2286

☆県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行います。

☆「平成24年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」をお求めの方は、栃木県植物防疫協会にお問い合わせください。Tel(028)683-5533 Fax(028)683-5530

携帯サイトからも「ご意見・ご質問」が送信できるようになりました。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。  
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-1012

# 平成24年度 病害虫発生予報 第3号

平成24年6月22日  
栃木県農業環境指導センター

## 〇なしの黒星病、果樹カメムシ類の発生に注意しましょう！ 〇いちごのうどんこ病やハダニ類は親株・育苗期からの防除が大切です！

予想期間6月下旬～7月下旬

- 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。
- 1 水稲 いもち病 (葉いもち)  
(1) 発生予想 発生量：やや少ない  
(2) 根拠 ・BLASTAM(葉いもち感染好適日条件)では、感染好適日が連続していない(20日現在)。(-)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込みで、発生に適している。(土～+)  
・発生が見られた場合には、早急にアミスターエイト、カスラブアサイドゾル等の予防・治療効果のある薬剤を散布する。(平年初発時期は6月第5半旬頃)
  - (3) 対策 ・感染好適条件は平均気温20℃前後で、弱い連続降雨がある時。
  - (4) 備考 ・当センターホームページにBLASTAMの情報を掲載中。

### 2 いちご (親株)

- (1) 発生予想 うどんこ病  
(2) 根拠 発生量：やや多い  
・現在の発生量は平年並(平年比:ほ場率136%、株率123%)。(土)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は平年並～多く、日照時間は少ない見込みで、発生に適している。(土)  
・本ばへの菌の持ち込みを防ぐため、親株から切り離す前に防除を徹底する。  
・生育に応じた葉かきを実施し、株の風通しを良くする。  
・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- (3) 対策 ・本ばでの多発を防ぐため、ベルクートフロアブル、アミスター2.0フロアブル等で適切に防除する。
- (4) 備考 ・高温時には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存している。

### 3 いちご (親株)

- (1) 発生予想 ハダニ類  
(2) 根拠 発生量：多い  
・現在の発生量はやや多い(平年比:ほ場率158%、株率167%)。(土)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(土)  
・ハウス内外の雑草はハダニ類の増殖場所になるため、除草を徹底する。  
・本ばへのハダニ類の持ち込みを防ぐため、親株から切り離す前に防除を徹底する。  
・気門封鎖系薬剤を定期的に散布する。  
・多発時にはマイトコローアブル等を散布する。  
・薬剤散布に当たっては葉裏にもよくかかるように散布する。
- (3) 対策 ・当センターHPに「いちご病害虫情報第12号」化学農業に頼らない、いちごのハダニ類の防除対策を掲載中。
- (4) 備考

### 4 なし 黒星病

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根拠 ・現在の発生量は多い(平年比:ほ場率235%、葉率367%)。(土)  
・向こう1か月の降水量は平年並～多い見込みで、発生に適している。(土～+)
- (3) 対策 ・発病した葉や果実は伝染源となるため、摘み取っては場外で処分する。  
・多発現場では、ストロピードライフロアブル、ナリアWDG等を散布する。
- (4) 備考 ・平成24年度植物防疫ニュース(速報No.6)「なし黒星病の発生が県内各地で急増しています。今後の黒星病発生増加に注意しましょう!!」参照。

・当センターHPに「なし黒星病菌の簡易薬剤感受性検定」を掲載中。

### 5 果樹類 果樹カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根拠 ・現在のフェロモントラップおよび水銀灯予察灯の誘殺量は多い。(土)  
・昨年のエスギ・ヒロキ球果収量が多かったため、越冬世代の発生量は多いと考えられる。(土)
- (3) 対策 ・多目的防災網で圃全体を被覆し、被害を防止する。  
・こまめに圃地内を観察し、飛来が認められたらベストガード水溶剤(なし)、アクトラ顆粒水溶剤(なし)、りんご、もも)等で防除する。
- (4) 備考 ・特に、山林に隣接するか、過去に多発生した圃地では注意する。  
・夜温が下がらず蒸し暑い日の日没後に飛来することが多い。薬剤の散布は、夕方から早朝が効果的である。なお、早朝散布時には近隣への騒音に注意する。  
・「平成24年度病害虫発生予察注意報第2号」参照。

### 6 その他の病害虫

いちご	炭疽病	アブラムシ類	灰色かび病	コナジラミ類	うどんこ病	アザミウマ類	発生予想	現況	発生予想
トマト	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	なす	やや多
きゅうり	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	ぶどう	やや多
	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	きく	やや多
	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	やや多	アザミウマ類	やや多

### 〇ほ場の雑草対策は害虫防除の基本です！

水田では、周辺の雑草だけでなく本圃内の雑草(ノビエ、イヌホトカイ等)も斑点米カメムシ類を誘引し、発生源となります。また、施設・露地に開く野菜類や花き類のほ場でも、ほ場内外の雑草(ホトケノザ、ウシハコゴベ、ヒメカシヨモギなど)はハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。薬剤散布時には、雑草が害虫の避難場所の役目を果たし、作物上への再侵入だけでなく、薬剤抵抗性発達の一因にもなります。適切な雑草対策で害虫類の生息しにくい環境をつくりましょう。

### 〇農業を正正に使いましょう(6～8月は農業危害防止運動期間です！)

☆ 農業を使用する場合は必ず農業容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。  
☆ 同一系統の薬剤の連用を避け、必ず異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

### 1か月気象予報(予報期間6月16日から7月15日 6月15日気象庁発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%、平均気温は高い確率40%です。週別の気温は1週目は平年並または高い確率ともに40%、2週目は低い確率40%、3～4週目は高い確率40%です。

〇気温	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
〇降水量	30%	30%	40%
〇日照時間	20%	40%	40%
	40%	30%	30%

### NEWS & INFORMATION

☆ 県では、農業による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農業危害防止運動期間」とし、農業の適正使用等について啓発活動を行っています。  
☆ 「平成24年度農作物等病害虫雑草防除の手引き」をお求めの方は、栃木県植物防疫協会にお問い合わせください。Tel(028)683-5533 Fax(028)683-5530

☆ 携帯サイトからも「ご意見・ご質問」が送信できるようになりました。ご利用下さい。  
詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用ください。  
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第4号

平成24年7月20日  
栃木県農業環境指導センター

○イチゴ炭疽病の発生に注意しましょう！

○水稲の斑点米カメムシ類、野菜・花き類のハダニ類、アザミウマ類の発生増加が懸念されます。

予想期間 7月下旬～8月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 発生量：少ない  
(2) 根 現在の発生は少ない。  
(3) 対策 ・BLASTAM(兼いもち感染好適日条件)による6月から7月(7/18現在まで)を通して、感染好適条件の発生は少ない。  
(4) 備考 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に不適である。  
・葉いもちが見られる場合は、穂ぞろい期にアミスターエイト、ブラシプロアール、カスラブサイドゾル等の予防・治療効果の高い薬剤を散布する。  
・当センターホームページにBLASTAMの情報を掲載中。  
・感染好適条件は平均気温20℃前後で、弱い連続降雨がある時。

2 水稲 斑点米カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 6月下旬の雑草地すくい取りでは発生は平年並で、カスミカメ類が広く発生している。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・種ぞろい期に斑点米カメムシ類が水田内で見られる場合は、乳熟初期(出穂期7～10日後)までにMR、ジョーカーEW、スターグル(スターグルメイト)液剤10等を散布する。  
(4) 備考 ・防除後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、7～10日間隔で1～2回の追加散布を行う。  
・植物防疫ニュース(速報 No.7)「今後の斑点米カメムシ類の動向に注意しましょう!」をホームページに掲載中。

3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 現在の発生は平年並  
(3) 対策 ・7月の巡回調査で親株、苗での発生が散見され、発生が平年に比べ早い。(+)  
・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適している。(+)  
・水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないかん水を行う。  
・風通しを良くするとともに、葦葉のぬれ時間が長くないよう、かん水はできるだけ晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。  
・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にべルグート水和剤、アントラコール顆粒水和剤等をローテーションで散布する。  
・発病株、発病した葉及びランナーは見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかに治療効果があるサンリット水和剤やゲッター水和剤等を散布する。  
(4) 備考 ・植物防疫ニュース(速報 No.8)「近年、炭疽病が多発しています。育苗期からいちご炭疽病の発生に注意しましょう!!」をホームページに掲載中。

4 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：平年並  
(2) 根 現在の発生はやや多い(平年比：ほ場率137%、株率185%)。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生にやや不適である。(+)  
・苗による本ばへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。  
・生育に応じて葉かきを実施し、株間の風通しを良くする。  
・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。  
・高温時には病徴が見えにくくなるので、予防を主体にフルビカフロアブル、アブエットフロアブル等をローテーションで散布する。  
・発生が見られた場合には、パンチョ TF 顆粒水和剤、サンヨール等を散布する。

5 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 現在の発生は平年並(平年比：ほ場率125%、株率132%)。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・ハウス内の雑草はハダニ類の増殖場所になるため、除草を徹底する。  
・苗による本ばへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を適正に行う。  
(4) 備考 ・葉裏を注意深く観察し、発生を認めたら気門封鎖系薬剤、テオネオン乳剤等を葉裏によくかかかのように散布する。  
・当センターHPにいちご病害虫情報第12号「化学農薬に頼らない、いちごのハダニ類の防除対策を掲載中。」

6 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：平年並  
(2) 根 現在の発生はやや少ない(平年比：ほ場率35%、株率12%)。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・ほ場周辺の除草を徹底する。  
・タハコモニジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので、施設の開口部に0.4mm以下の防虫ネットを張り侵入を防ぐ。光反射シートや紫外線カットフィルムも効果がある。  
・今後定植する作型(1型)に対しては、育苗期及び定植時にベスタガード粒剤、スターグル(アルバリン)粒剤等を施用する。

7 野菜・花き類 アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根 現在の発生量は多い～やや多い(なす・きゅうり・ねぎ・きく)。(+)  
(3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は平年並～高い見込みで、発生に適している。(+)  
・雑草はアザミウマ類の増殖場になるので、ほ場内外を除草する。  
・施設栽培では紫外線カットフィルムを被覆したり、施設開口部に防虫ネットを張ることで、アザミウマ類の侵入を防ぐ。  
(4) 備考 ・栽培終了時にはハウスを密閉して蒸し込みを行い、確実に死滅させる。  
・アザミウマ類はウイルス病(キユウリ黄化えそ病、ニラえそ条斑病、キク茎えそ病、キクえそ病等)を媒介するので注意する。  
・当センターHPに「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」を掲載中。

8 その他の病害虫

水稲	いちご	トマト	ななし	現況	発生予想	現況	発生予想
穂萎枯病	いもち病	灰色かび病	黒星病	ぶどう	多	べと病	多
				りんご	平年並	斑点落葉病	少
				果	やや少	カメムシ類	多
				き	多	白さび病	多
					やや多	ハダニ類	多
					平年並		やや多

○農薬を適正に使いましょう！(6～8月は農薬散布停止運動期間です！)

- 必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
- 農薬散布時には、周辺の人や農作物等にかからないように十分注意し、周辺住民に周知を図るとともに、散布の時間帯にも気を配りましょう。
- 同一系統の薬剤の連用を避け、必ず異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間7月14日から8月13日) 7月13日気象庁発表

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率とも40%です。週別の気温は、1週目は高い確率60%です。2週目は、平年並の確率40%です。3～4週目は、高い確率40%です。

項目	確率	平年並の確率	高い(多い)確率
気温	20%	40%	40%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	40%	30%

☆「平成24年度 農作物等病害虫雑草防除の手引き」のお求めは、栃木県植物防疫協会にお問い合わせください。

Tel (028) 683-5533 Fax (028) 683-5550

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppu.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

当センター携帯サイト (<http://www.jppu.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用ください。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第5号

平成24年8月24日  
栃木県農業環境指導センター

○大豆の吸害性カメムシ類、ハスモンヨトウの増加が懸念されます！  
○野菜・花き類のハダニ類の防除は早めを実施しましょう！

予想期間8月下旬～9月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 大豆 吸害性カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・現在の発生発生率が低い(平年比：ほ場率456%)。(+)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、増殖に適している。(+)
- (3) 対策 ・開花期の15日後から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10日～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期(9月上中旬)の吸汁害は、減収品質低下が大きいため9月も防除を行う。
- (4) 備考 ・植物防疫ニュース(速報No.14)「大豆で吸害性カメムシ類、フタスジヒメハムシの増加が懸念されます」をホームページに掲載しました。

2 大豆 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・現在の発生発生率が高い(平年比：ほ場率182%)。(+)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、増殖に適している。(+)
- (3) 対策 ・フェロモントラップでの成虫誘殺数がやや多い。(+)  
・定期的にほ場をよく観察して早期発見に努め、発生を確認した卵塊や分散前の幼虫は養生薬とともに摘み取り処分する。
- (4) 備考 ・ハスモンヨトウの幼虫は齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。  
・植物防疫ニュース(速報No.13)「大豆におけるハスモンヨトウの動向に注意しましょう」をホームページに掲載しました。  
・「ハスモンヨトウ3齢幼虫の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中(適用作物注意)。

3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率50%)。(一)
- (3) 対策 ・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)  
・発病株、発病葉及びランナーは早つけ水取り除き、ほ場外で処分する。また、潜在感染株を本ほ場に持ち込まないために、発病株周囲の株は使用しない。  
・水滴の飛散等によって伝染するので、水の跳ね返りが少ないようなかん水を行う。また、曇雨天日及び夕方のかん水を控える。  
・発病株が見られたら、速やかにサンリット水と薬剤等を散布する。  
・症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体にベルコート水と薬剤(定植前まで)等をローテーションで散布する。  
・植物防疫ニュース(速報No.8)「近年、炭疽病が多発しています。育苗期からいちご炭疽病の発生に注意しましょう」、「イチゴ炭疽病の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中。

4 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率23%、発生株率23%)。(一)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生にやや不適である。(土～)

(3) 対策

- ・苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。
- ・高温期に病徴が見えない場合でも、この時期にフルビカフロアブル、ジーブアイン水和剤等で予防する。
- ・発生が見られたら、バンチョーTF顆粒水和剤、アフエットフロアブル等を散布する。

5 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率158%、発生株率118%)。(+)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、増殖に適している。(+)
- (3) 対策 ・苗による本ほへの持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。  
・発生が見られたら葉裏のハダニ類を洗い流すように気門封鎖系薬剤を散布する。なお、葉の濡みを防ぐため、高温時や乾きにくい雨天日の散布を避ける。  
・ハウス内の雑草はハダニ類の増殖場所になるため、除草を徹底する。

6 さく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比：ほ場率163%)。(+)  
・向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、増殖に適している。(+)
- (3) 対策 ・下葉や葉裏に多く発生するので、その部分に薬剤がよくかかるように散布する。  
・葉裏をよく観察し、発生が見られたら、気門封鎖系薬剤を散布するか、マイトコナーフロアブル[ピシガ]、ダニサラバフロアブル等を散布する。

7 その他の病害虫

水稲	穂いもち	現況	発生予想	ねぎ	現況	発生予想
縹葉枯病	アザミウマ類	少	多	果樹	アザミウマ類	多
いもち	アザミウマ類	多	多	さく	白さび病	少
なす	アザミウマ類	多	多		アザミウマ類	多

○水稲の縹葉枯病の発生に注意しましょう

- ・発生地域が県全域に拡大しています。ほ場での後期発病(出すくみ)の発生状況を確認し、次作への対策を検討しましょう。

○なしの黒星病の秋季防除について

- ・本年は生苗初期から収穫期近くまで黒星病の発生が多く見られました。黒星病菌は芽基部や落葉で越冬し翌年の発生源になるので、収穫終了後は必ず薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分しましょう。薬剤についてはホームページに掲載中の「ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定」を参照ください。

○いちご本ほへの病害虫持ち込みに注意しましょう

- ・病害虫を本ほへ持ち込まないよう十分に注意し、健全株を定植しましょう。

1か月気象予報(予報期間8月18日から9月17日 8月17日気象庁発表)

関東甲信地方の天気は数日の周期で変わります。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。週別の気温は、1週目は高い確率60%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は高い確率40%です。

○気温	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○降水	20%	30%	50%
○日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnpa.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト(<http://www.jpnpa.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012



平成24年度 病害虫発生予報 第6号

平成24年9月21日  
栃木県農業環境指導センター

○トマトの黄化葉巻病は初期の対策が肝心です！  
○いちごのハダニ類多発防止のために初期防除を徹底しましょう！  
○野菜類・花き類のハスモンヨトウの多発生に注意しましょう！

予想期間9月下旬～10月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 成植病

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 現在の発生量は平年並。発生に適している。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高い見込みで、発生に適している。(+)  
被害株は見つけ次第取り除き、ほ場外へ持ち出して処分する。  
晴通しを良くするとともに、茎葉のぬれ時間が長くならないよう、かん水は晴天日の午前中に行い、曇雨天日及び夕方の方のかん水を控える。  
(4) 備考 発生量の恐れがある場合や被害株の周辺には、セイビアフロアブル 20 等を散布する。  
「イチゴ成植病の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 現在の発生量は平年並 (平年比：ほ場率 86%、株率 57%)。(±)  
(3) 対策 向こう1か月の気温は高い見込みで、増殖に適している。(+)  
ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。  
化学農薬に対する薬剤感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行う。また、抵抗性の発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。  
(4) 備考 葉かき後は薬剤がかり易いので、マルチ前の下葉かきにあわせて、気門封鎖剤やマイコンネフロアブル等を散布する。  
気門封鎖剤は卵には効果が無いため、必ず複数回、十分量を散布する。  
天敵製剤を使用する場合は、放飼前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。  
「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

3 野菜類 コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い  
(2) 根 発生量は平年並 (なす、きゅうり) ややや少 (いちご)。(±～-)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、発生に適する。(+)  
増殖源となる、ほ場内外の除草を徹底する。  
タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス、キョウリ退緑黄化ウイルスを媒介するので、施設の開口部に0.4mm 目以下の防虫ネットを張り侵入を防ぐ。光反射シートや近業外線カッターフィルムも効果がある。  
(4) 備考 黄色粘着板を施設内に設置し、コナジラミ類を捕殺するとともに、こまめに観察して発生の目安とする。特に開口部付近には多めに設置する。  
育苗期、定植時にベスガード粒剤<適用作物：トマト、なす、きゅうり>等を使用する。  
発生を認めたらサンマイトプロアブル<適用作物：トマト、きゅうり>、コロト顆粒水和剤<トマト、なす、きゅうり>等を散布する。  
近業外線カッターフィルムや一部薬剤は、マルチハダニへの影響に注意する。  
植物防疫ニュース (速報 No.18) 「トマトハウスの周辺でTYLCVを採集したタバココナジラミが確認されています！」をホームページに掲載中。

4 野菜類・花き類

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根 現在、フェロモントラップでの誘殺数はやや多い。(+)  
露地野菜では発生がやや多い (ねぎ) が多い (なす)。(+)  
向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、発生に適する。(+)

(3) 対策

- 発生が見られたらフエニックス顆粒水和剤<適用作物：いちご>、トマト、なす、きゅうり、きく、プレオフロアブル<適用作物：いちご、トマト、なす>等で防除する。
- 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫は寄生菜ごと摘み取り処分する。
- ハスモンヨトウの幼虫は成長とともに薬剤が効きにくくなるため、初期防除を心掛ける。
- 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防止する。
- 「ハスモンヨトウ3齢幼虫の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中 (適用作物注意)。

(4) 備考

5 野菜類・花き類

- (1) 発生予想 発生量：多い  
(2) 根 現在、フェロモントラップでの誘殺数は並。(±)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ない見込みで、発生に適する。(+)  
果実や花、頂芽などに寄生するため、防除が遅れると被害が大きくなる。寄生されやすい部位をこまめに観察し、必ず発生初期にアブアーム乳剤<適用作物：いちご、トマト、なす、きく>等で防除する。  
植物組織の内部に侵入するため、薬剤がかりにくい。薬剤散布後は、必ず防除効果を確認する。  
(4) 備考 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。  
被害果実はほ場外に持ち出して処分する。

6 その他の病害虫

いちご	うどんこ病	アブラムシ類	アブラムシ類	うどんこ病	発生予想	発生予想	発生予想	発生予想
きゅうり	うどんこ病	アブラムシ類	アブラムシ類	うどんこ病	やや少	やや少	やや少	やや多
きゅうり	うどんこ病	アブラムシ類	アブラムシ類	うどんこ病	平年並	平年並	平年並	やや多
きゅうり	うどんこ病	アブラムシ類	アブラムシ類	うどんこ病	やや多	やや多	やや多	多

秋の病害虫防除対策

- トマト黄化葉巻病 (TYLCV)  
・ 前作の越冬・冬春作型調査では、発生が平年に比べやや多かった。  
・ TYLCVはタバココナジラミの吸汁によって媒介されるので、上記「野菜類のコナジラミ」を参考に防除を行う。  
・ ウイルスを獲得したタバココナジラミは、約1日の潜伏期間を経て死ぬまで伝搬能力を持つ。  
・ 野良生えトマトや雑草類は、TYLCVの感染源や、タバココナジラミの増殖源となるため、ハウス内外の除草と野良生えトマトの除去を徹底する。  
・ 罹病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、速やかにビニル袋などで密封し、枯死させてから処分する。

1か月気象予報 (予報期間9月15日から10月14日 9月14日気象庁発表)  
期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。また、期間の前半は少雨の状態が続く見込みです。週別の気温は、1週目は高い確率が80%、2週目は高い確率が40%、3～4週目は平年並みの確率が40%です。

気温	低い (少ない) 確率	平年並みの確率	高い (多い) 確率
○気温	10%	40%	50%
○降水量	40%	30%	30%
○日照時間	30%	30%	40%

NEWS & INFORMATION

☆ 「栃木県農業管理指導士」養成研修 (11月12・13日)・更新研修 (11月12日) が開催されます。申込期間が10月1日～31日となりますので、特に更新対象者の方はお忘れなく申し込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全体型農業担当までお問い合わせください。  
Tel(028)623-2286

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>) もご利用ください。  
Tel(028)626-3086 Fax (028)626-3012

平成24年度 病害虫発生予報 第7号

平成24年10月19日  
栃木県農業環境指導センター

○いちごのハダニ類・アザミウマ類は初期防除が重要です！

予想期間10月下旬～11月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- 発生量：**平年並**
- ・現在の発生量はやや少ない(平年比：ほ場率35.9%、発生株率45.0%)。(一)
  - ・向こう1か月の気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適する。(土～+)
  - ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水をを行う。
  - ・現在発生が見られなくても、今後発生する可能性があるため、保溫開始までにタフパール、サノヨール等で予防する。
  - ・保溫開始後は、硫黄粒剤でくん煙する。
  - ・発生初期にアミスター20フロアブル、フルピフロアブル等を葉裏にもよくかかるとともに散布する。
  - ・タフパールは微生物農薬であるため、他の殺菌剤との混用を避ける。

2 いちご ハダニ類

- 発生量：**やや多い**
- ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率83.8%、発生株率69.8%)。(土)
  - ・向こう1か月の気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適する。(土～+)
  - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。(土～+)
  - ・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、下葉かきにあわせて、気門封鎖剤を散布する。
  - ・気門封鎖剤は明には効果が無いが、必ず複数回、十分量を散布する。
  - ・また、殺菌剤を使用する場合は、放菌前に一度防除し、ハダニ類の密度を下げる。
  - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。
  - ・「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

3 いちご アザミウマ類

- 発生量：**やや多い**
- ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率114.9%、発生株率62.5%)。(土)
  - ・向こう1か月の気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適する。(土～+)
  - ・雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、施設内外の除草を行う。
  - ・発生初期にはマツチ乳剤[適用害虫：ミカンキイロアザミウマ]等、多発生時にはスピノエノス顆粒水和剤等を散布する。
  - ・アザミウマ類は花に寄生するため、花をよく観察する。
  - ・マツチ乳剤はIGR剤であるため、幼虫にのみ有効である。
  - ・植物防疫ニュース(速報No.20)「いちごのアザミウマ類による被害発生に注意しましょう！」をホームページに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- 発生量：**やや少ない**
- ・現在の発生量は少ない。(一)
  - ・向こう1か月の気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適する。(土～+)
  - ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
  - ・咲き終わった花弁や落果、発病葉は感染源となるので早急に取り除き、施設外で処分する。
  - ・発生初期にカリグリーン、フルピフロアブル等を葉裏にもよくかかるとともに散布する。
  - ・予防としてぶつキョラー水和剤のダクト内投入を行う場合には、あらかじめ他の殺菌剤を散布し、菌密度を下げておく。
  - ・本県では近年多発生が続いている。予防と初期防除に努めること。

5 野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- 発生量：**多い**
- (1) 発生予想 現 況 発生予想 現 況 発生予想 現 況 発生予想
  - (2) 根 拠 多
  - (3) 対 策 きゅうり 白斑葉枯病 アザミウマ類
  - (4) 備 考 野菜類 オオタバコガ
- ・幼虫は成長とともに薬剤が効きにくくなるため、初期防除を行う。

・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫は寄生葉ごと摘み取り処分する。

・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。

・植物防疫ニュース(速報No.21)「オオタバコガ・ハスモンヨトウの誘殺数が増加しています！」をホームページに掲載中。

6 その他の病害虫

- 発生量：**多**
- ・現在の発生量は平年並(平年比：ほ場率114.9%、発生株率62.5%)。(土)
  - ・向こう1か月の気温は平年並～高い見込みで、発生にやや適する。(土～+)
  - ・定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫は寄生葉ごと摘み取り処分する。
  - ・施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
  - ・植物防疫ニュース(速報No.21)「オオタバコガ・ハスモンヨトウの誘殺数が増加しています！」をホームページに掲載中。

秋冬の病害虫防除対策

- イネ縞葉枯病、イネ黄萎病**  
・再生稻での発生は次年度の伝染源になるので、早めに秋耕を行う。
- コムギ縞葉縮病**  
・汚染ほ場の拡大を防止するため、作業順序に気を配り、作業機の洗浄を心がける。
- ・排水対策を行う。畑田では暗きよ等の積極的な排水を行う。
- ・ミミズは罹病しやすいため、ほ場の選定に注意する。また、やむを得ず発病ほ場にタマイズを作付けする場合は、早播きすると罹病しやすいため、播種適期内の遅めの時期に播種する。
- ・地域別の播種適期は以下のとおり。 県中部：11月6日～15日 県南部：11月9日～18日
- トマト黄化萎縮病(TYLCV)**  
・野良生えトマトや雑草類はTYLCVの感染源や、媒介虫であるタバココナジラミの増殖源となるため、ハウス内外の除草と野良生えトマトの除去を徹底する。
- ・罹病株は伝染源となるので早つけしだい抜き取る。抜き取った株は放置せず、速やかにビニル袋などで密閉し、枯死させてから処分する。
- なし黒星病(秋期防除)**  
・病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫後は徒長枝の先端までまんべんなく落葉がかるよう丁寧に薬剤散布を行い、園内外の落葉を集めて適切に処分する。防除の際は周辺へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意する。
- ※植物防疫ニュース(速報No.15)「収穫終了後になし黒星病の防除を徹底しましょう。」参照。

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

- ☆ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。
- ☆同一薬剤の運用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

1か月気象予報(予報期間10月13日から11月12日 10月12日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。

	低い(少ない) 確率	平年並の確率	高い(多い) 確率
○気温	20%	40%	40%
○降水量	30%	40%	30%
○日照時間	30%	40%	30%

NEWS & INFORMATION

- ☆「栃木県農業管理指導士」養成研修会(11月12日、13日)・更新研修(11月12日)が開校されます。申込期間は10月31日までとなりますので、特に更新対象者の方はお忘れなくお申し込みください。詳しくは農政部経営技術課環境保全部型型農業担当までお問い合わせください。
- Te1(028)623-2286

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。  
Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012



## 平成24年度 病害虫発生予報 第9号

平成24年12月14日  
栃木県農業環境指導センター

### ○トマトの灰色かび病は予防と初期防除が重要です！

予想期間 12月下旬～1月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

#### 1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**  
(2) 根拠 現在の発生はやや多い(平年比：ほ場率121%、株率196%)。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで発生に不適。(+)  
適正な温度管理や換気、こまめなかん水等を実施する。  
発生を予防するため、硫黄剤によるくん煙を行う。  
(4) 備考 発生初期にサンリット水和剤、ダイマジン等を葉裏にもよもよもかかかのように散布する。  
植物防疫ニュース(No.26)「いちごうどんこ病の発生に注意しましょう」をホームページに掲載中。

#### 2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**  
(2) 根拠 現在の発生はやや多い(平年比：ほ場率142%、株率102%)。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで発生に不適。(+)  
ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除する。  
ハダニ類は下葉に多いことが多く、必要に応じて下葉かきを行い、葉液がかりやすい状態で気門封鎖剤を散布する。  
(4) 備考 気門封鎖剤は阴には効果がなく、必ず複数回、十分量を散布する。  
天敵剤を使用する場合は、放飼前に一度薬剤防除し、ハダニ類の密度を下げる。また、使用する薬剤は天敵に影響のないものを選択する。  
植物防疫ニュース(No.25)「いちごのハダニ類の増加に注意しましょう」をホームページに掲載中。  
「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定」、「ナミハダニに対する気門封鎖剤の効果試験」をホームページに掲載中。

#### 3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**  
(2) 根拠 現在の発生はやや多い(平年比：ほ場率151%、株率67%)。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで発生に不適している。(+)  
今後、施設内が多湿となりやすく、発生に不適している。(+)  
ハウス内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。  
咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、ハウス外で処分する。  
(4) 備考 防除は予防を基本とし、暖房機を利用したボトキラー水和剤のダクト内投入を行う。なお、本剤は発病前からの継続した使用が効果的である。  
発生初期に、フルビカフロアブル、セイビアフロアブル20等を散布する。  
植物防疫ニュース(No.23)「トマト灰色かび病の発生を防ぎましょう」をホームページに掲載中。

#### 4 トマト 黄化葉巻病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**  
(2) 根拠 現在の発生は多い(平年比：ほ場率213%)。(+)  
(3) 対策 現在のコナジラミ類の発生は少ない(平年比：ほ場率13%、株率2%)。(+)  
罹病株は伝染源となるため、見つけたい速やかに抜き取り処分する。  
施設内に黄色粘着トラップを設置し、コナジラミ類を捕殺する。  
ダハココナジラミの発生が見られる場合は、テイアナSC[イガ]類、アニキ乳剤[イガ]類等を散布する。

#### 5 なら 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**  
(2) 根拠 現在の発生は平年並(平年比：ほ場率114%、株率32%)。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低く、発生に不適している。(+)  
施設内が多湿とならないよう、日中に適度な換気を行う。  
発生初期にセイビアフロアブル20、ポリオキシゲンA.L.水溶液等を散布する。

#### 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**  
(2) 根拠 現在の発生は多い(平年比：ほ場率193%、株率232%)。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低い見込みで、発生に不適である。(+)  
下葉や葉裏にかけ残しがないように、薬剤を散布する。薬剤のかかり易い生育初期から抑えることで、その後の増加を抑制する。  
葉裏をよく観察し、発生が認められたら、発生初期には気門封鎖系薬剤を散布する。  
(4) 備考 発生初期にサンリット水和剤、ダイマジン等を葉裏にもよもよもかかかのように散布する。  
植物防疫ニュース(No.26)「いちごうどんこ病の発生に注意しましょう」をホームページに掲載中。

#### 7 きく アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**  
(2) 根拠 現在の発生は多い。(+)  
(3) 対策 向こう1か月の平均気温は低く、発生に不適である。(+)  
雑草が高くなるため、防除が困難になるため、早期発見に努め、密度の低い時点で薬剤防除を行う。  
(4) 備考 発生が認められたら、カウスター乳剤、トクナオン乳剤等を散布する。  
アザミウマ類はウイルス病(キク萎えそ病、キクえそ病)を媒介するので注意する。  
「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定」をホームページに掲載中。

#### 8 その他の病害虫

いちご	発生予想	発生予想	発生予想	発生予想
灰色かび病	少	やや少	やや少	やや多
アザミウマ類	平年並	やや少	やや少	やや多
きゅうり	う	どんこ病	き	白さび病

農薬は適正に管理し、正しく使いましょう！

☆ 同一薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布をしましょう。  
☆ ミツバチやマルハナバチに対する安全日数を目安に薬剤を選択しましょう。

#### 1か月気象予報(予報期間 12月8日から12月7日 12月7日気象庁発表)

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、低い確率80%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、低い確率40%です。

○気温	50%	30%	20%	高い(多い)確率
○降水量	30% <td>40%<td>40%<td>30%</td></td></td>	40% <td>40%<td>30%</td></td>	40% <td>30%</td>	30%
○日照時間	30% <td>40%<td>40%<td>30%</td></td></td>	40% <td>40%<td>30%</td></td>	40% <td>30%</td>	30%

#### NEWS&INFORMATION

☆ 病害虫情報発表のお知らせは、「農政部ツイッター(@tochigi\_nousei)」でも発信していますので、是非、ご利用ください。

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jpnu.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせください。  
当センター携帯サイト(<http://www.jpnu.ne.jp/tochigi/keitai.htm>)もご利用ください。

Tel (028)626-3086 Fax (028)626-3012